

# 教育相談・巡回相談等で活用できる、主訴に基づいたICF関連図作成手順について (試案) ver.1改



国立特別支援教育総合研究所 専門研究A  
 「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究  
 ー活用のための方法試案の実証と普及を中心にー」研究チーム

## ICF関連図ワークシート例1

<健康状態> 変調または病気		対象者： 作成者： ICF関連図作成日： 年 月 日 再検討予定日： 年 月 日
<心身機能・身体構造>	<活動>課題や行為の個人による遂行	<参加>生活・人生場面へのかかわり
<環境因子> 物的・人的・制度的環境	<個人因子> 体力、習慣、経験、性格、 困難への対処方法 など	<主体・主観>本人の気持ち など

(大久保(2007)を改編)

## 「ICF関連図」とは

- ICFの概念図を模した図に対象児/者の情報を整理して、個々の情報、情報間の関連などを検討するための図。
- ICFには含まれない本人の気持ち(「主観・主体」等)を付加されたものが多い。
- 多くの情報を盛り込み、実態把握などに使われる通称「全体図」、ある特定の内容の実態にしぼったり、特定のゴールを想定したりして、ケース会議等で使われる通称「部分図」等がある。

## 続：「ICF関連図」とは

- その中から対象児/者の課題(≠できないこと)や指導/支援の手がかりを検討する等に使用されることが多い。
- 話し合いのツールとして使われたり、引き継ぎのための資料として使われたり、それらが併用されたりする。
- ICFチェックリスト等での評価後に作成されたり、今ある情報から作成されたりする。

## 教育相談・巡回相談等でのICF関連図の活用

- 相談活動において、担当者が対象児／者の情報を集めることや情報を整理すること等に活用されている。
- 関係者に作成したICF関連図を提示し、課題や指導／支援の手がかりを検討する等に活用されている。

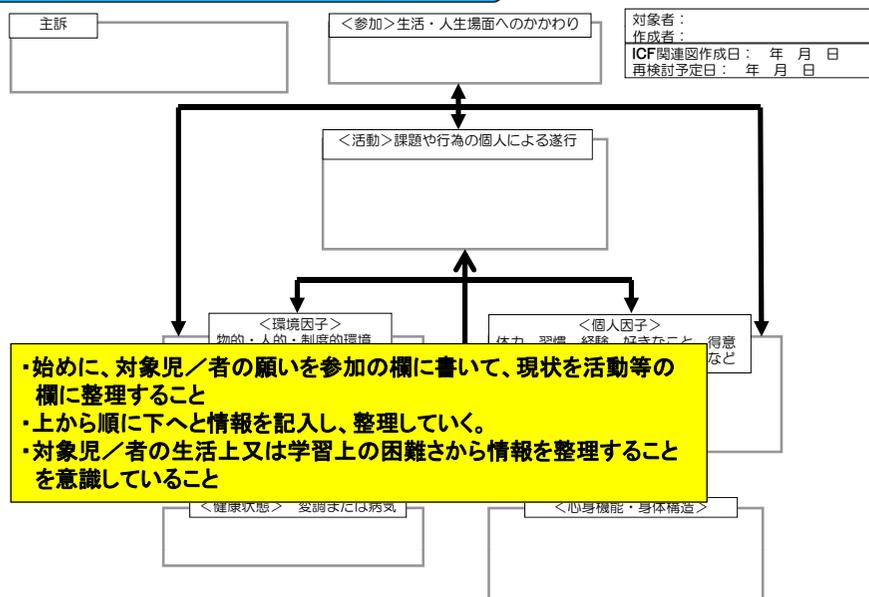
5

## ICF関連図ワークシート例 2

対象者: 作成者:	ICF関連図作成日: 年 月 日 再検討予定日: 年 月 日
主訴	<個人因子> 体力、習慣、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処方法など
<健康状態> 変調または病気	
<心身機能・身体構造>	<活動>課題や行為の個人による遂行
	<参加>生活・人生場面へのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に対象児／者の得意なことや、好きなことの情報から、長所等を見つけること</li> <li>得意なこと、好きなことが指導内容、指導方法、支援方法を考える上でポイントになること</li> </ul>	
<環境因子> 物的・人的・制度的環境	<主体・主観>本人の気持ち など

6

## ICF関連図ワークシート例 3



- 始めに、対象児／者の願いを参加の欄に書いて、現状を活動等の欄に整理すること
- 上から順に下へと情報を記入し、整理していく。
- 対象児／者の生活上又は学習上の困難さから情報を整理することを意識していること

<参考: 神奈川県立座間養護学校>

7

## 今回の「ICF関連図」作成の目的

教育相談・巡回相談等において担当者がICF及びICF-CYを活用し、主訴に基づいた対象児／者の情報の整理や課題解決に向けた検討をすること

## 準備する物

- 「ICF関連図」のワークシート(A3版)
  - 検討する集団の大きさに合わせて拡大する。
- 付箋紙
  - 1×5センチくらいのもので
- ICFの分類項目が分かるもの(「赤本」、分類項目一覧表など)
- 鉛筆、消しゴム
  - 線が重なって見えにくくなることを防ぐ

8

## 「ICF関連図」作成の段階

○教育相談・巡回相談等の担当者が対象児／者の情報を集めること、整理する段階のICF関連図作成

○関係者に作成したICF関連図を提示し、課題や指導／支援の手がかりを検討する段階のICF関連図作成

9

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅠ

担当者が対象児／者の情報を整理する段階

(1)主訴を付箋紙に記入し、付箋紙の欄に貼る。



(2)主訴に基づいて、対象児／者の願い、或いはなつて欲しい姿等を具体的に付箋紙に記入し、「参加」に貼る。(以下、最終目標とする)



(3)最終目標に関連する事柄を事前の情報から抜き出して、付箋紙に記入する。

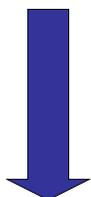
10

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅡ

(4)付箋紙をICF関連図のワークシートに分類する。



(5)関連する付箋紙の事柄を矢印で結ぶ。



・事前情報の整理段階での対象児／者の実態や課題が見えてくること  
・不足している情報や子どもの実際の観察時のポイント、関係者への聞き取り内容等が明らかになること

(6)子どもの観察で得られた情報から、主訴に関連する情報を付箋紙に書き出す。

11

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅢ

(7)書き出した付箋紙を事前に作成したICF関連図に追加し、分類する。



(8)再度、関連する付箋紙の事柄を矢印で結ぶ。



・対象児／者の実態や課題が見えてくること  
・不足している情報があれば、協議場面で関係者への聞き取り、その場で付箋紙に書いてICF関連図に貼っていくこと

(9)主訴に関する対象児／者の背景情報から課題を導き出す。

担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する場合もある。

12

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅣ

担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する段階

(1) 担当者が作成したICF関連図を提示し、主訴に関する子どもの背景情報を関係者で検討し、共通理解する。

新たな情報が出てきたら、付箋紙に書いて貼る。

・目標をもとに実態を捉えるときに、関係者が対象児／者以外の課題に気づくために、対象児／者の気持ち(主体・主観)を考慮すること

(2) 関係者で対象児／者の課題を検討し、現在の目標を付箋紙に書いてICF関連図に貼り、共通理解する。

工夫: 付箋紙の色を変えること、別のICF関連図に貼ること

13

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅤ

(3) 目標が決まったところで、関係者が指導内容、指導方法、支援方法を検討し、付箋紙に書き出して貼り、共通理解する。

・具体的な評価の視点についても確認しておくこと

(4) 関係者で指導方法・支援方法の役割分担をし、共通理解する。

いつから、誰が、どのような場面で、何を、どのような方法でどうするかを明確にする。

・関係者で指導内容、指導方法、支援方法の役割分担をすることで、対象児／者をみんなで支援していくことができること  
・関係機関との連携が必要な場合は、早急に関係機関と連絡を取り、繋げていくこと

14

## 「ICF関連図」具体的な作成の流れⅥ

(5) 次回の再検討日等を決める。

・後日必ず、目標、指導内容、指導方法、支援方法について評価すること  
・毎日の指導観察の中で再検討日を待たずに実態、課題、目標、指導内容、指導方法、支援方法の変更があるかも知れません。その時は、必要に応じて検討すること

15

実際の「ICF関連図」の作成例  
を見てみましょう



16

# 仮想事例

☆☆小学校の4年生のA君。男の子。通常学級に在籍  
 家族4人（父、母、弟）  
 学校の活動には元気いっぱい参加し、勉強や遊び何でもやる気満々な児童です。  
 しかし、やる気はあるのですが、よく友達とトラブルになります。勉強中も、消しゴムを貸したとか返さないとか、休憩時間も仲良くボールを持って友達と運動場に行くのですが、楽しくサッカーをしていると思っていたら、いつの間にか友達とケンカになっています。  
 A君は、友だちと遊びたいようですが、最近では、ケンカになるので、友達がA君を誘わなかったり、A君と一緒に遊ぶことが嫌になってきているようです。  
 お母さんに家での様子を伺うと、家でも弟とゲームを勝手に取ったなどでよくケンカになるそうです。最後は、お母さんがA君を怒ってケンカはおさめますが、同じことを何回も繰り返しては怒っています。

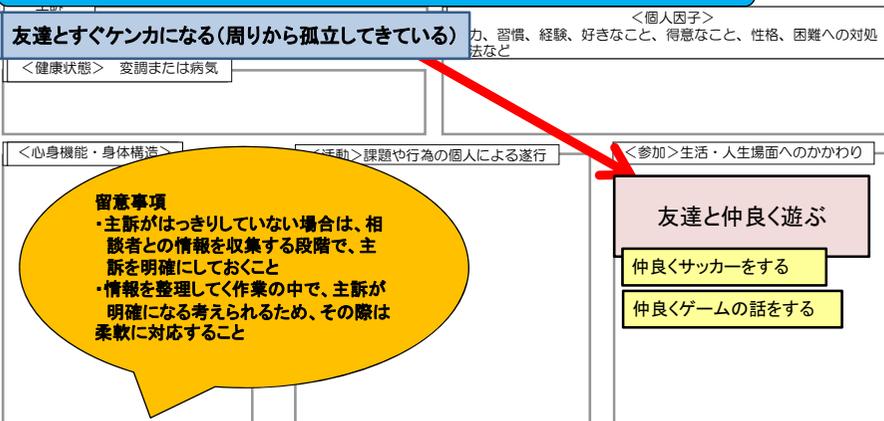
# 情報収集で気をつけること

☆対象児／者に合わせて情報を聞き出すこと

# 情報収集の内容

- 情報収集の内容は、行動面、言語面、社会面等について学校での様子や家庭生活・地域生活での様子を具体的に収集すること
- 対象児／者を取りまく環境資源について収集すること
- 学校規模、校内の支援体制、管理職の学校運営方針、学校の雰囲気、教室や学校の物理的環境、相談者の特別支援教育を含む経験年数や教育観等も収集すること

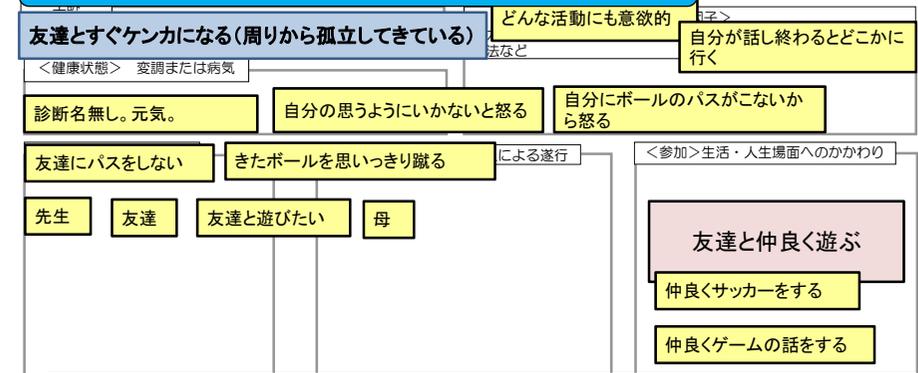
## 担当者が対象児／者の情報を整理する段階（1）・（2）



**留意事項**  
 ・主訴がはっきりしていない場合は、相談者との情報を収集する段階で、主訴を明確にしておくこと  
 ・情報を整理して作業の中で、主訴が明確になる考えられるため、その際は柔軟に対応すること

物  
 ・子どもの願いを付箋紙に書くとき、子どもの願いや保護者の願い、或いは、子どもになって欲しい姿を付箋紙に書くときなどがあること  
 ※この仮想事例の場合は、具体的な場面を想定して付箋紙に書いて、参加の欄に貼っている。

## 担当者が対象児／者の情報を整理する段階（3）



- 目標に関連する事柄に絞って、実態を付箋紙に書くこと
- できていることやできていないことも含めて目標に関係する情報を付箋紙に書くこと
- 学校だけの様子ではなく、家庭での様子も分かっていたら付箋紙に書くこと
- 主訴に関する子どもの気持ちを付箋紙に書くこと
- 付箋紙には、具体的に、短く書くこと

### 担当者が対象児／者の情報を整理する段階 (4)

友達とすぐケンカになる(周りから孤立してきている)

＜個人因子＞  
力、習慣、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処法など

＜健康状態＞ 変調または病気

ゲームが好き    サッカーが好き

診断名無し。元気。

＜心身機能・身体構造＞

自分の思うようにいかないと怒る  
自分にボールのパスがこないから怒る  
どんな活動にも意欲的  
思ったらすぐに行動している

＜活動＞課題や行為の個人による遂行

友達にパスをしない  
きたボールを思いっきり蹴る  
自分ばかり話をする  
自分が話し終わるとどこかに行く  
先生が説明していても急に自分のことを話さることがある

＜参加＞生活・人生場面へのかかわり

友達と仲良く遊ぶ  
仲良くサッカーをする  
仲良くゲームの話をする

・ 分類することに悩む項目は、とりあえずどちらかに分類しておくこと  
・ ICF及びICF-CYの分類項目を参考にする  
・ 構成要素内での同じ内容の付箋紙は、近くに貼ること

活動: 課題や行為の個人による遂行のこと  
参加: 生活・人生場面への関わり

21

### 担当者が対象児／者の情報を整理する段階 (5)

友達とすぐケンカになる(周りから孤立してきている)

＜個人因子＞  
力、習慣、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処法など

＜健康状態＞ 変調または病気

ゲームが好き    サッカーが好き

診断名無し。元気。

＜心身機能・身体構造＞

自分の思うようにいかないと怒る  
自分にボールのパスがこないから怒る  
どんな活動にも意欲的  
思ったらすぐに行動している  
怒られるが、忘れる

＜活動＞課題や行為の個人による遂行

友達にパスをしない  
きたボールを思いっきり蹴る  
自分ばかり話をする  
自分が話し終わるとどこかに行く  
先生が説明していても急に自分のことを話さることがある

＜参加＞生活・人生場面へのかかわり

友達と仲良く遊ぶ  
サッカーをする  
ゲームの話をする  
ゲームを勝手にとる

＜環境因子＞  
物的・人的・制度的環境

＜主体・主観＞本人の気持ち など

注意事項  
「なぜ〇〇なのか」「このとき子どもの気持ち(願い)は何か」等を考えながら繋いでいくこと

・ 目標に関する付箋紙を繋いでいくこと  
・ 追加の情報や現在の情報をより具体的に書くことができるときは、新たに付箋紙に書いて貼ること  
・ 線で結べない項目は、後ほど関連した情報を収集し、新たに付箋紙に書いて追加すること

22

### 担当者が対象児／者の情報を整理する段階 (6)(7)(8)(9) 担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する段階(1)

友達とすぐケンカになる(周りから孤立してきている)

＜個人因子＞  
力、習慣、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処法など

＜健康状態＞ 変調または病気

ゲームが好き    サッカーが好き

診断名無し。元気。

＜心身機能・身体構造＞

自分の思うようにいかないと怒る  
自分にボールのパスがこないから怒る  
どんな活動にも意欲的  
思ったらすぐに行動している  
怒られるが、忘れる

＜活動＞課題や行為の個人による遂行

友達にパスをしない  
きたボールを思いっきり蹴る  
自分ばかり話をする  
自分が話し終わるとどこかに行く  
先生が説明していても急に自分のことを話さることがある

＜参加＞生活・人生場面へのかかわり

友達と仲良く遊ぶ  
サッカーをする  
ゲームの話をする  
ゲームを勝手にとる

＜環境因子＞  
物的・人的・制度的環境

先生    母    友達

友達と遊びたい

注意事項  
関係者で検討する時は、対象児／者にあわせて、対象児／者が主体的に考えられるように話し合いを進めること

・ 事前の情報、実際の観察場面でもとれない情報は、協議会や協議会前に情報を収集し、付箋紙に書いてICF関連図に貼り、線で繋ぐこと

23

### 担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する段階(2)

友達とすぐケンカになる(周りから孤立してきている)

＜個人因子＞  
力、習慣、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処法など

＜健康状態＞ 変調または病気

ゲームが好き    サッカーが好き

診断名無し。元気。

＜心身機能・身体構造＞

自分の思うようにいかないと怒る  
自分にボールのパスがこないから怒る  
どんな活動にも意欲的  
思ったらすぐに行動している  
怒られるが、忘れる

＜活動＞課題や行為の個人による遂行

友達にパスをしない  
きたボールを思いっきり蹴る  
自分ばかり話をする  
自分が話し終わるとどこかに行く  
先生が説明していても急に自分のことを話さることがある

＜参加＞生活・人生場面へのかかわり

友達と仲良く遊ぶ  
サッカーをする  
ゲームの話をする  
ゲームを勝手にとる

＜環境因子＞  
物的・人的・制度的環境

先生    母    友達

友達と遊びたい

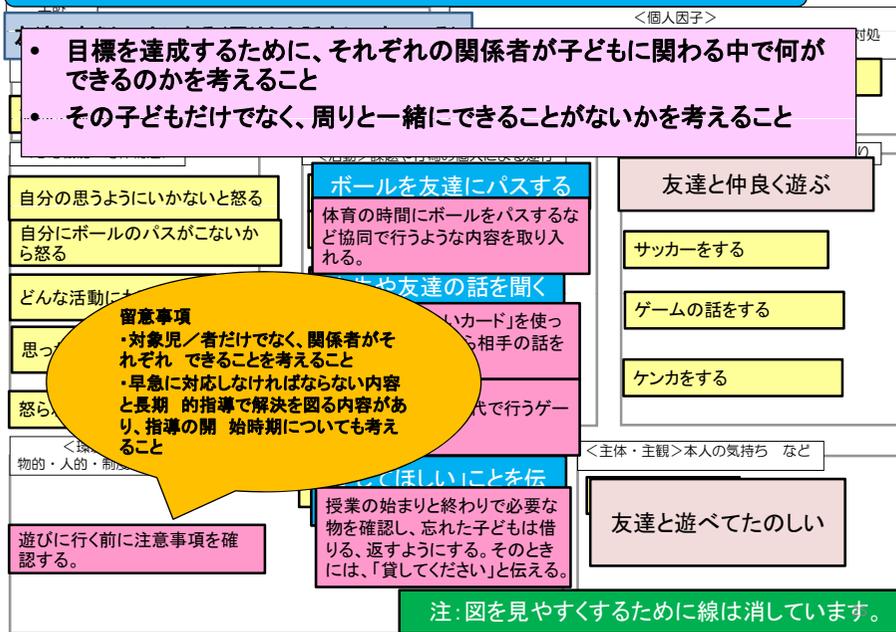
注意事項  
対象児／者の環境や気持ちも含めてできる目標を設定するように導くこと

ボールを友達にパスする  
先生や友達の話聞く  
「かしてほしい」ことを伝える

・ 参加を実現するために何ができるようにしなければいいのを考えて目標を立てること

24

担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する段階(3)



担当者が作成したICF関連図を提示して関係者で検討する段階(4)

例えば...

目標	時期	指導する人	指導場面	指導内容	指導方法	支援方法
すること・できること	いつから	誰が	どのような場面で	何を使って	どうする	どうする
ボールを友達にパスする	次の単元から	体育の先生が	体育の時間に	友だちとボールをパスして協同で行うような内容を取り入れる。	パスをつなげる。	毎回ゲームのルールを分かるようにゲーム前に確認する。簡単なゲームにする。
友達や先生の話聞く。					聞いた話の内容を書く。	話しをする時間と聞く時間を設定する。話の内容を書く時間を設定する。
交代で行うゲームができる	2週間後に	校長先生が	昼休みに	オセロゲームを使って順番にコマをおく。	相手がコマを置くのを待つ。	始めはテンポ良く行うが、徐々に考えるようにして待つ時間を作っていく。

留意事項  
 ・関係者に対象児／者を含めたチームで解決する意識を持ってもらうこと  
 ・再検討日に明確な評価の視点で話し合うために関係者で確認しておくこと